

心の姿勢を正そう ～新年度に生徒の皆さんに望むこと～

大阪市長市岡東中学校長 西村 誠

【電車の中の出来事】

3 人の高校生が荷物を座席に置いて座っていました。次の駅で乗客が乗り込んできました。

一人は、電車のドアが開いた瞬間、カバンを膝の上に置きました。

もう一人は、乗客がすぐそばまで近づいてきたのを見て、膝の上に置きました。

最後の一人は、近づいてきた乗客に目で合図をされて、膝の上にカバンを置きました。

人間には、「変化の気配を感じて行動を起こせる人」「目の前の変化を見て初めて行動を起こせる人」「人に言われて初めて変化に気づき行動を起こせる人」の3種類の人がいると言われています。

学習においてもスポーツ・芸能においても「**伸びる人**」は、**第一番目の人**です。

よく学校にお叱りの電話がかかってきます。

「生徒の下校態度がなってない。横に並んで歩いている。どんな指導を学校はしているのか」
(先生なら誰でも聞く地域からの代表的なお叱りです)

なぜ、怒っているのでしょうか。

横に並んで歩いていることが原因でしょうか…。 違います。

前から、後ろから地域の方が近づいてきたときに、その気配を感じてその人が通ることができるように「よけない」から怒っているのです。

たとえ、狭い道を横に並んで歩いても誰かが近づいてきたとき「さっと横によけて道を開ければ…」

何のお叱りもないだけでなく、むしろ「ありがとう」と言われるかも知れません。

「**空気を読め**」とよく言われます。これも言葉を変えれば「**気配を感じろ**」というのと同じです。

何で、私だけ「静かにしなさい」と叱られるのか。

(先生なら誰でも聞く子どもからの代表的な苦情です)

あなた以外の人たちは、気配を感じて私語をやめて静かにしています・・・が答えです。
映画館で映画が始まっているのにまだしゃべっている人と同じです。

周りの人たちは、心の中でその人たちに・・・「気づけよ」と訴えているのです。

人間生活の中で大切なことは、「気づき」だと言われています。

これも相手の気配を読み取る「能力」と言えます。

相手が話題にしてほしくないのに、いつまでもそのことを話し続ける人がいます。

嫌がっている表情、身体全体から発せられている「空気」を感じることができないのです。

先日、会社を経営している同級生と話す機会がありました。
最近の新入社員の特徵は、「自信過剰」「空気が読めない」「他力本願」だと言っていました。
取引先の人と話す時も相手の表情を見て…
相手が何を望み、何を聞こうとしているのか…

に「気づきがない」から契約が成立するはずはないと嘆いていました。

では、「気配を読む」「気づき」を育てるにはどうしたら良いのでしょうか。

以前、ある有名な学校の水泳部の監督が試合に強い心を作るために選手を座禅に連れて行ったところ、その寺の住職から「一週間や一か月、坐禅をしても心を磨くことはできない。
見えない心を磨くには見えるものを磨きなさい」と言って「掃除」を徹底することを勧められたと言います。

真剣に掃除に取り組むことが「気づき」を育てる一番の近道だとも言われています。

家ではどうでしょうか。

- ・ 帰ったとき靴がきちんとそろっているか、振り返って確認していますか。
- ・ 部屋の片づけはどうですか。
- ・ 食事の後の片づけはどうですか。
- ・ ドアをきっちりと閉めていますか…。

学校ではどうでしょうか。

- ・ 机はまっすぐになっていますか。
- ・ カバンはどのようなになっていますか。
- ・ 授業を始める体制は整えられていますか。
- ・ 姿勢はどうですか。
- ・ 食事の後は汚れていませんか。
- ・ 清掃時間に目配りをして汚れやほこりを徹底的に取り去っていますか…。

今日から新学期の生活が始まります。普段の生活態度から心の姿勢を正し、気づく心をしっかりと育ててほしいものです。これが結果としてすべての向上につながるのです。